

# 平成 29 年度重要サンゴ群集モニタリング調査報告書

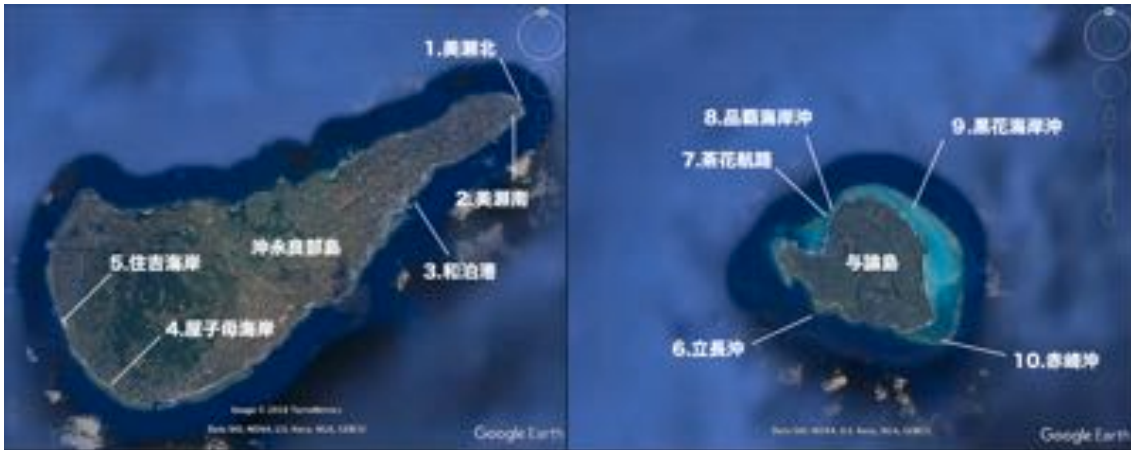
## 奄美群島サンゴ礁保全対策協議会

### 1. 目的

奄美群島のサンゴ礁は、1998 年の大規模なサンゴの白化現象、2000 年から 2008 年のオニヒトデ大発生により大きな攪乱を受けた。しかしながら、白化やオニヒトデにより壊滅したサンゴ礁にもサンゴ幼生が定着し、全体的にサンゴは回復傾向にあったが、2016 年、2017 年と 2 年連続大規模な白化が発生し、その影響が懸念されている。本調査では、奄美群島サンゴ礁保全対策事業モニタリング地点以外の調査地点を選定し、サンゴ群集の現況を把握し保全に資する事を目的とする。

### 2. 調査海域

沖永良部島の重要サンゴ群集海域 5 地点および与論島の重要サンゴ群集海域 5 地点。



### 3. 調査結果

沖永良部島では、和泊町の美瀬北および美瀬南の礁池内で、健全なサンゴ群体が保全されており、シュノーケリング等の観光資源としての活用が期待される。領海域とも干出礁原に囲まれた穏やかな環境であった。調査時には波が高く、礁縁での調査ができなかったが、堤防に囲まれた和泊港東の礁縁においてもサンゴは回復傾向がみられた。知名町の屋子母海岸の生サンゴ被度は 10%程度で、白化群体やテルピオス (黒色カイメン) による被覆がみられ、生息環境は良好ではなかった。住吉海岸は、水深が浅く生サンゴ被度は 5%未満であったが、アオウミガメが数多くみられた。

与論島では、茶花航路西側の礁原 300m にわたり特に被度の高い海域があり、サンゴ群体も健全な状態であった。すでにシュノーケリング等に活用されており、観光資源として重要である。品覇海岸沖では被度はやや低下するが、大型卓状ミドリイシ群体も散見できる。礁池内では、局所的に高い被度海域があり、黒花海岸の緑色のユビエダハマサンゴ群落や赤崎沖のユビエダハマサンゴ、スゲミドリイシ群落は、シュノーケリング等で活用されている。

両島の調査地点において、オニヒトデは確認されず、また、白化群体のみられた地点はあったが、死滅群体はなく今後回復するものと思われる。

島名	市町村		調査地点	被度	特記事項
沖永良部島	和泊町	1	美瀬北 (礁池)	20%	干出礁原内の閉鎖的な礁池。水深は1mほど。波打ち際近くからハマサンゴ群落があり、直径3mほどのマイクロアトールを形成しているハマサンゴもみられる。ユビエダハマサンゴやシコロサンゴ群体も散見できる。ユビエダハマサンゴの一部群体が白化していたが、ほとんどのサンゴ群体は健全な状態。サンゴ食生物による食痕もみられなかった。波浪の影響の少ない穏やかな環境で、シュノーケリング等に適しているが、水深が浅く水路が狭いため、フィンによるサンゴの破損が懸念される。 (調査日:2017年12月10日)
		2	美瀬南(礁地)	20%	間出礁原内の閉鎖的な礁池。波打ち際近くにシコロサンゴ小群落が広がり、礁池内はハマサンゴ、ユビエダハマサンゴ小群落が点在する。樹枝状ミドリシ属群体はごく少数みられる。水深は1~2m。海藻類も多く、海底にはシカクナマコが多くみられた。魚種も多く、種多様性は高い。一部のユビエダハマサンゴに部分白化群体がみられたが、白化群体は少なくサンゴ食生物による食痕はみられない。ある程度水深もあり、シュノーケリング等に適している。砂浜からのエントリー時にサンゴ群体を踏みつけないように注意が必要。 (調査日:2017年12月10日)
		3	和泊港北 (礁縁)	20%	和泊港北側の堤防に囲まれた礁縁。ハナヤサイサンゴが優占し、直径20~30cmの卓状および指状ミドリシ属の群体も散見できる。全体の約30%が白化していたが、白化による死亡群体はみられなかった。調査範囲とした水深3mまでは生サンゴ被度は20%であったが、水深が深くなると被度は低下する。他海域の礁縁調査は、調査時に波が高く実施できなかったため、堤防内で調査を行った。 (調査日:2017年12月9日)
	知名町	4	屋子母海岸 (礁池)	10%	水深2~3mの礁池。局所的に直径1m以上のハナガササンゴやエダコモンサンゴ、トゲコモンサンゴ等の樹枝状群体がみられる。トゲコモンサンゴは全体の約20%が部分白化。サンゴ全体の10%ほどの群体にテルピオス(黒色カイメン)の被覆がみられた。濁りがあり、生息環境はやや不良。 (2017年12月10日)
		5	住吉海岸 (礁池)	5% 未満	遠浅の礁池で水深は1m以浅。ごくわずかにハマサンゴ群体がみられ、群マイクロアトール状に成長している群体は、上部が部分白化している。干出に耐えられる数種のサンゴしかみられない。海底はサンゴ岩。調査時には7

					頭のアオウミガメが採食していた。 (調査日:2017年12月10日)
与論島	与論町	6	立長沖 (離礁)	20%	立長地先ダイビングポイント「長崎の塔」浅所の離礁。水深1~5mの離礁上部にハヤサイサンゴ、直径10~30cmの指状ミドリイシ群体がみられる。波当たりが強く、骨格のしっかりしたサンゴが多く、大型群体はみられない。 (調査日:2017年8月25日)
		7	茶花航路 (礁原)	95%	茶花港沖の航路(漁港)西側の礁原。約300mに渡り広範囲に生サンゴ被度が高く、礁原上にナンヨウミドリイシ等の卓状ミドリイシ属群体およびトゲスギミドリイシ等の樹枝状ミドリイシ群体が連なる。白化群体は全体の10%程度で、サンゴ食生物による食痕はみられない。特に卓状ミドリイシは1m超の大型群体も多く優れた水中景観を有する。シュノーケリング等に利用されており、観光資源としても重要。フィンキック等による破損がないように利用マナーの周知が必要。 (調査日:2017年8月25日)
		8	品覇海岸沖 (礁原)	60%	上記調査地点の茶花航路から西へと連なる品覇海岸沖合の礁原。礁原上は被度が高いが、西へ行くほど被度は低下する。付着藻類がやや多い。直径1m超の卓状ミドリイシも散見できる。白化群体は全体の10%程度で、サンゴ食生物による食痕はみられない。多少濁りもあり、陸水の影響を受けている可能性もある。 (調査日:2017年8月26日)
		9	黒花海岸沖 (礁池)	20%	黒花海岸沖合約600mの礁池内。底質はサンゴ礫で、樹枝状のユビエダハマサンゴや塊状のハマサンゴ小群落が点在する。特に優占するユビエダハマサンゴ群体は緑色で、優れた水中景観を有している。デバスズメダイの群れやアオウミガメもみられ、シュノーケリングにも利用されている。白化群体やサンゴ食生物の食痕もみられない。 (調査日:2017年8月26日)
		10	赤崎沖 (礁池)	50%	赤崎灯台から南東へ約650mの礁池内。ユビエダハマサンゴの大群落が広がり、群落上部には芝草状のスゲミドリイシ群落がみられる。奄美群島の他海域では、あまりみられない得意な水中景観となっている。水路に近く、波浪の影響を受けやすく潮流には注意が必要。白化群体やサンゴ食生物の食痕もみられない。 (調査日:2017年8月26日)

1. 美瀬北礁池（被度 20%） 調査日:2017 年 12 月 10 日



2. 美瀬南礁池（被度 20%） 調査日:2017 年 12 月 10 日



3. 和泊港北離礁（被度 30%） 調査日:2017 年 12 月 9 日



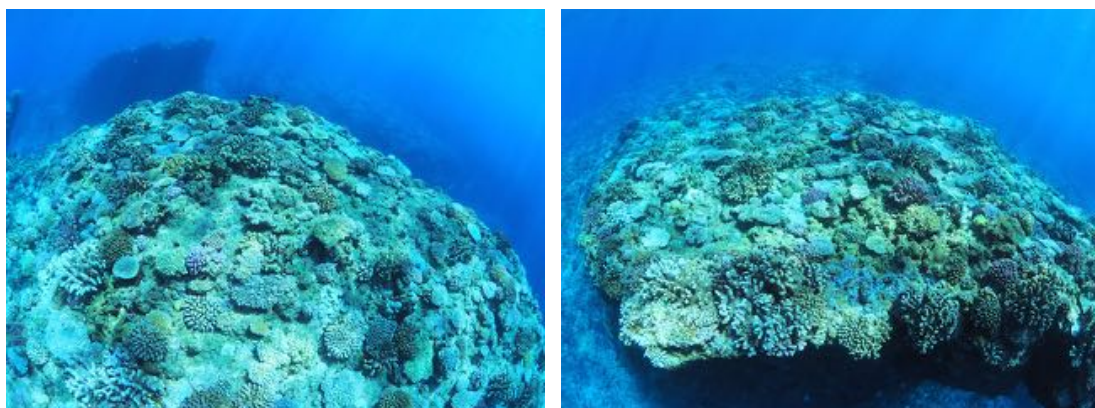
4. 屋子母海岸礁池（被度 10%） 調査日:2017 年 12 月 10 日



5. 住吉海岸礁池 (被度 5%未滿) 調査日:2017年12月10日



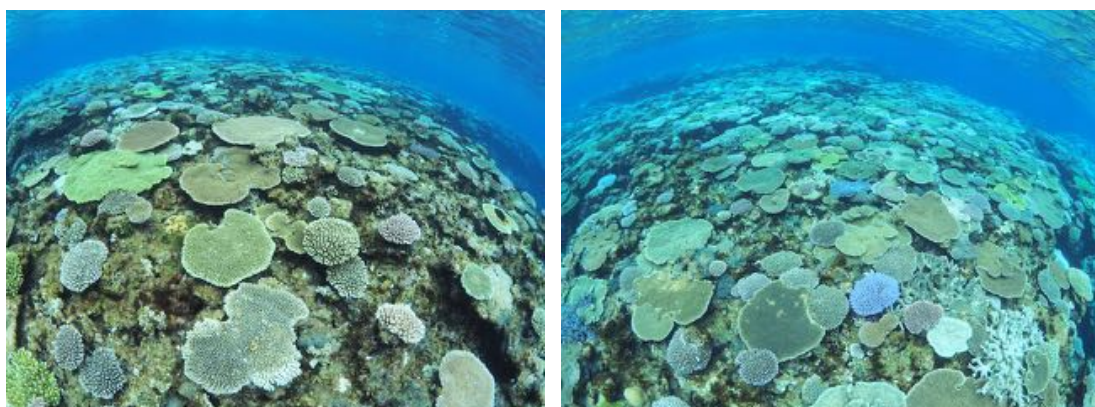
6. 立長沖離礁 (被度 20%) 調査日:2017年8月25日



7. 茶花航路礁原 (被度 95%) 調査日:2017年8月25日



8. 品覇海岸沖礁原 (被度 60%) 調査日:2017年8月26日



9. 黒花海岸沖礁池（被度 20%）調査日：2017 年 8 月 26 日



10. 赤崎沖礁池（被度 50%）調査日：2017 年 8 月 26 日

